

2010年度名古屋大学学生論文コンテスト優秀賞（附属図書館長賞）受賞

山田悠至「核兵器廃絶、理想と現実の狭間で」

修正箇所一覧

--- 2011年6月30日付修正

- 第1章 3行目 「まず、」→「まず当初の真剣な提案に関しては、」
5行目 「提案した⁴。」→「提案し⁴、」
7行目 「頓挫させた」→「頓挫させることになった」
10行目 「決裂した。そして、」→「決裂、」
19行目 「維持していた。」→「維持していたのであり、」
- 第2章 6行目 「意味である。」→「意味であり、」
8行目 「飛ばされる。」→「飛ばされ、」
12行目 「兵器となる。」→「兵器となり、」
25行目 「変化した¹⁷。」→「変化し¹⁷、」
- 第3章 35行目 「至るだろう。このため、」→「至るため、」
- 第4章 5行目 「認めている。」→「認めており、」
- 第5章 35行目 「破壊する。このシステムの」→「破壊するシステムであり、」
- 注 ²⁰ 『核戦略と論理』→『核戦略と倫理』
²³ 『核戦略と論理』→『核戦略と倫理』
- 参考文献 9行目 『核戦略と論理』→『核戦略と倫理』

--- 以上